

コード No. 10041

**Anti-Human  
p53 (Bp53-12) Mouse IgG MoAb**

容量 : 200 µg

はじめに : p53 は、当初がん抑制遺伝子産物としてではなく、DNA 型がんウイルス SV40 の large T 抗原と結合する 53kDa の細胞タンパク質として見出されました。p53 が細胞トランスフォーミング活性を持つことから当時はがん遺伝子であると考えられていましたが、その後トランスフォーミング活性をもつのは変異型で、正常な p53 遺伝子(野生型)はがん抑制遺伝子として機能することが報告されています。また p53 は、遺伝的に様々ながんを強発現する Li-Fraumeni 症候群の原因遺伝子であり、非遺伝性腫瘍においても広範かつ高頻度に突然変異が見られることから、p53 遺伝子の異常(変異型)が細胞のがん化に深く関与していると考えられています。その他 p53 は放射線や薬剤などによる DNA 損傷にตอบสนองして、DNA 修復のために細胞周期停止の働きをしたり、傷ついた遺伝情報が伝わらないようにアポトーシスを引き起したりする活性を持つと考えられています。生化学的には、四量体(C 末端領域で出来た二量体同士の間相互作用により形成される)で働く転写因子として作用し、特異的な塩基配列に結合して転写を活性化します。標的として、GADD45, MDM2, MCK, p21/WAF, cyclin G 遺伝子などが明らかにされています。

免疫抗原 : p53 のリコンビナントタンパク質

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ  
(X63-Ag8.653×BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : Bp53-12 サブクラス : IgG2a

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : PBS 1 mL に溶解したものを凍結乾燥 (BSA, NaN<sub>3</sub> 不含)

再生方法 : 精製水 1.0 mL をバイアルに添加 (この時濃度は 200 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 2 ~ 5 µg/mL にて使用可能  
(ホルマリン固定・パラフィン切片 : マイクロウェーブ処理 (10 mM クエン酸緩衝液 pH 6.0) が必要)  
: ウェスタン ブロットング 2 ~ 5 µg/mL にて使用可能

特異性 : 野生型、変異型 p53 と反応します。

交差性 : マウス、ラットとは交差しません。